熊本大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程教授システム学専攻

<u>学生番号 103-G8810 氏 名 佐藤 祥史</u>

修士論文(又は特定課題研究)要旨 (日本語)

題 目

同期型遠隔教育の設計ガイドラインの開発と評価~WebEx を利用した取り組みを例にして~

要 旨

本研究は企業・社会人向けに実施されている1対多形式の同期型遠隔教育において学習 者から指摘されている同期型遠隔教育特有の問題点の解決と、同期型遠隔教育を実施する 講師の実施準備の負荷軽減および実施に際してのインストラクション品質を一定以上に保 つことを目的とした「1対多形式の同期型遠隔教育向け教育設計ガイドライン」の開発と 評価を行うものである。

遠隔教育に対する研究は様々な観点から進められているが、非同期型と比較した場合に、 同期型については教授設計に対する指針を示すものが非常に少ないのが現状である。

筆者は、勤務先企業(教育サービスベンダー)において1対多形式の同期型遠隔教育(以 降、遠隔研修)を試行しているが、集合教育のエキスパートである講師であっても遠隔教 育についてのノウハウが無いため、実施準備の負担増や講義におけるインストラクション の品質低下といった問題が発生している。

この問題への対策として、遠隔研修を実施する講師のために、遠隔研修における「べき / べからず」的な情報を集めたガイドラインがあればと考えたが、有力な先行研究を見つ けることができなかった。

そこで本研究では類似する先行研究を参考に、遠隔教育における特性分析研究の結果や 遠隔研修の運用経験から得られる知見を整理し、講師のための1対多形式同期型遠隔教育 のガイドラインを試作し、実際に遠隔研修に携わっている講師による形成的評価を実施し て、その結果をもとに改善を加えた。

本研究の成果物であるガイドラインは、1対多形式での教育を行う企業や学校機関にお いて、効率的・効果的・魅力的な同期型の遠隔教育を実施するための有効なガイドライン になることが期待される。

熊本大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程教授システム学専攻

学生番号 103-G8810 氏 名 佐藤 祥史

修士論文(又は特定課題研究)要旨(英語)

題

目

Development and evaluation of Design Guideline for synchronous remote class ${\sim}{\rm approach}$ by using WebEx ${\sim}$

要 旨

This research performs development and evaluation of "the educational design guideline for the synchronous type distant education of one-pair many forms." In the synchronous distant education of the one-pair many forms currently carried out for a company or members of society, the purpose of this research is to maintain solution of a problem, and a lecturer's load mitigation and instruction quality more than fixed.

Research to distant education is advanced from various viewpoints. However, about a synchronous type, what shows the indicator over a teaching design is very little in comparison with an asynchronous type.I try to do synchronous distant education (call, "Enkakukenshu") of an one-pair many type in office (teaching service vendor). "Enkakukenshu" has the problem. Because, even if it is a lecturer who is an expert of set education, in order that there may be no know-how about distant education , that quality fall of the instruction in the increase of a burden and the lecture of enforcement preparation. Although if there is a guideline for a lecturer "Enkakukenshu" was considered as a measure in question, a leading previous work was not able to be found.

So, in this research, the knowledge acquired from the result of the characteristic analysis research in distant education and employment experience of remote training by reference in similar precedence research was arranged, and the guideline for a lecturer was made as an experiment. And the formative evaluation by the lecturer engaged in "Enkakukenshu" was carried out, and the improvement was added based on the result.

It is expected that the guideline which is a product of this research will turn into an effective guideline for carrying out to efficient, effective, and attractive synchronous distant education, that set to the company and school organization which perform the education in one-pair many forms.

ふりがな 氏名 生年月日 現住所		佐 	王藤 1982年 143-00		史
年月日 2005年3月31日				21 日	事項 東京工科大学メディア学部卒業
	2005年		3 月	31 日	
	2	年	月	日	
学	2	年	月	日	
歴	2	年	月	日	
	2	年	月	日	
	2	年	月	日	
2005		年	4月	1日	株式会社富士通ラーニングメディア入社(在職中)
	2	年	月	日	
職	2	年	月	日	
歴	2	年	月	日	
	2	年	月	日	
	2	年	月	日	

履歴書

以上のとおり相違ありません

平成 24 年 1 月 9 日

氏名

印

(自署)